

保谷二小 研究便り

令和5年 11月24日
西東京市立保谷第二小学校
校長 三澤 亘潤
研究推進部主任

研究主題 自ら探究する児童の育成 ～「市民科」単元開発を通して～

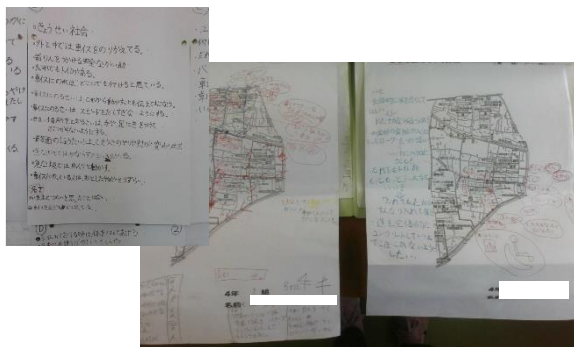
～第3回研究授業 10月18日(水)～
4年2組 市民科「ともに生きる ～みんなが暮らしやすい町を考えよう」

中学年では、「地域の人、もの、ことの中から調べ、その情報を基に考えたことをまとめようとする児童の育成を目標に設定し、取り組んでいます。

4年生では、6月に行った小平特別支援学校との副籍交流をきっかけとし、「車椅子を使う人」という比較的身近な事例をもとに課題を設定することで、児童が興味関心をもち学習を進められると考え、単元開発に取り組みました。

共生社会についての理解を深めるために、東京老人ホームにご協力いただいた車椅子体験や、パラピアンでもある西東京市役所職員の方にお話を伺いました。その経験から「物」や「心」に目を向け、それを課題解決のための視点の一つとして捉え、「車椅子を使う人も、自分たちにとってもっと暮らしやすい町にするためには、どうしたらよいか」という問題解決に繋がりました。

研究授業では、地域の一員として自分たちの町をよりよくしようと考える意欲を高めるために、予算や時間などの現実的な問題には拘らずに、今まで学んだことを基に自由な発想で考えるようにしました。ホワイトボードを活用した班の話し合いの際にも、班ごとに自分たちに合ったまとめかたをしたことで、児童の自由な発想を広げることができるようになりました。



夏季休業期間中の「反転学習」から車椅子体験、元パラピアンの市職員の方との関わり、町探検などにおいて考えたことや気付いたことを記録に残したものを基に思考しました。

班で出し合った意見を他の班と交流し、質疑応答の時間をもちました。なぜその発想に至ったか、相手に伝えるたことで、より話す側も聞く側も考えを深めることに繋がりました。

